

議事録

関西学連第5回総会

2016年2月14日 希望ヶ丘文化公園にて

1. 次期幹事・渉外紹介

幹事長：中村（京大）欠席

事務局長：松田（阪大）

副幹事：（京大）

遠藤（阪大）

渉外部長：辻江（京女）

会計部長：金澤（奈良女）

競技部長：未定

普及部長：未定

広報部長：岡本（奈良女）

京大渉外：鳥越

阪大渉外：清川

奈良女渉外：遠山

京女渉外：未定

競技部長、普及部長について例年京大と阪大の輪番で出していたが、今年度は現時点で名前が挙がっている候補者の能力やモチベーションを考慮して、京大から競技部長、阪大から普及部長を出す方向で調整にあたる。

2. 次期諮問委員について

例年各校OB・OG一年目の世代から一人ずつ出している。今年度も同様にしたいので学校ごとに調整を始めてほしい。

3. 新歓日程について

特に学連主催の新歓行事に関して、他の大会や学校行事と重複しないよう確認する。例年学連が行っている新歓行事は、

- ・学連新歓
- ・新歓合宿
- ・第一回定例戦

の三つ。学連新歓については4年生が運営にあたるのでこれから調整していく。現状の大会日程等を考慮すると4月24日が有力である。新歓合宿については具体的な準備はまだ始まっていない。ただ現状の予定では5月21、22日が濃厚である。一定は5月

15 日が有力である。

以下、規約改正に関しては幹事長作成の論点整理資料および規約草案に基づいて審議した。

4. ミドルセレ実施規約・推薦基準改正について

実施規約

第 6 条：セレ免除者について、

現行規約では「世界大会出場者」のみが指定されているが、「世界大会出場者および前年度インカレ入賞者」と改定したい。

京大、奈良女、京女：賛成

阪大：セレと世界大会が重複することはないため世界大会に関する記述は不要

→3 校が賛成したことを重視し、ロング規約との整合性も考えて上述のように改定する。

全校承認

8 条 1：A エリート、B エリートに分かれた記載を B エリート廃止に伴って削除したい

全校承認

8 条 3：推薦人数について

現行では「選出人数が 11 名以上のときは 2 名を推薦で選ぶ」との記載があるが「11 名未満の場合は推薦人数を 1 名とする」という内容を加えたい

→全校承認

9 条：学校枠について

学校枠そのものが廃止されたので削除したい

→全校承認

10 条：「セレ次点」の定義を明確にするため、「セレ通過者および推薦選出者を除いた者のうち上位から順に」と書き換えたい

→全校承認

推薦基準

優先度 3「提出された考慮すべき大会」に「前年度インカレなど」と具体的な大会名を挙げるべきか

京大、阪大、京女：挙げなくてよい。推薦希望者がインカレの成績の考慮を望むのなら自分で書けばよいし、一人が書けば全員記録が参照されるのだから、学連から指定する必要はない。

奈良女：前年度インカレを挙げるべき。指定があれば推薦希望者の希望に関わらず、諮

問委員が前年度インカレの記録を自由に参照できる

幹事長：議論を整理すると大会名を挙げるメリットとデメリットが分かる

メリットは、推薦希望者の希望に関わらず諮問委員がインカレの記録を参照できれば、前年度インカレの記録が確実に重視されることになり、インカレという大舞台でプレッシャーに負けずに活躍できる選手を選びやすくなること。

デメリットは、万一インカレが推薦希望者の誰からも提出されない場合（諮問委員会で実質的にインカレの記録を参照できない場合）というのは、推薦希望者の全員が前年度インカレの記録には満足していない場合。前年度インカレの記録の提出を義務付けると推薦希望者本人にとって不本意な大会で選考されることになる。

→3校反対、1校（奈良女）賛成で具体的大会名は書き加えないことを決定

優先度1について「女子は10位」を改定するべきか

4校ともが、40人に対して10人はあまりにも基準が厳しい、ロングとの整合性から考えて15人にすべき、と主張

→全校賛成で、「女子は15位」に改定

優先度3「提出できる大会」の期間について、いつからいつまでの大会が選考基準になりうるか

京大、京女：前年度セレよりあと、今年度セレまでの大会

阪大、奈良女：提出できる大会の選択肢は多い方がよいので、前年度セレから今年度セレまで

各校ほぼ同じ意見だが、「前年度セレから」および「今年度セレまで」という表現はそれぞれ前年度セレ、今年度セレを含むのか

- ・今年度セレはそもそもその年度の選考会であるから当然含まれる
- ・提出できる大会は多い方がよいという立場に立てば前年度セレも含まれる
- ・すでに今年度の選考会を行っているのに前年度の選考会の記録を参考にするのは不自然なので前年度セレは除外すべき

→議論の結果、前年度セレは含まず、今年度含むという解釈に決定。

全校承認により以上のとおりミドルセレ実施規約および推薦基準を改定する

5. ロングセレ実施規約・推薦基準改正について

実施規約

6条：セレ免除について

ミドル規約との整合性から「世界大会出場者および前年度インカレ入賞者」に改訂

→全校一致で決定

8条1に「推薦人数は総会の承認が必要」との旨の記載があるが、推薦人数は8条4で規定されている。よって全校一致で8条1の削除を決定。

9条および10条：次点の定義

ミドルに合わせて「セレ通過者および推薦選出者を除いた者のうち上位から順に」と改定。

→全校一致。

推薦基準

優先度3「提出された考慮すべき大会」に「前年度インカレなど」と具体的な大会名を挙げるべきか

京大、阪大、京女：挙げなくてよい。推薦希望者がインカレの成績の考慮を望むのなら自分で書けばよいし、一人が書けば全員記録が参照されるのだから、学連から指定する必要はない。

奈良女：前年度インカレを挙げるべき。指定があれば推薦希望者の希望に関わらず、諮問委員が前年度インカレの記録を自由に参照できる

→3校の反対でミドル同様特に具体的大会名の指定はしない

優先度1について現行基準では女子は15位だが20位に改定するべきか

京大、京女、奈良女：ミドルとの整合性から考えて15人にすべき、と主張

阪大：男子の総競技者数と規定順位との比率を算出しそれに合わせて女子の順位を決定する規約を作るべき。来年度以降女子の競技者が減る可能性があるため、比率で決定する方式にしておいた方が将来的な規約の混乱を防止できる

※ここで表彰式のため一時休止を挟む。この間で各校渉外が自校の選手の意見を集め、あるいは個人的意見をまとめる作業を行った。

→全校一致で比率方式に決定。また女子の順位決定にあたっては男子の比率から計算し小数点以下を四捨五入することを決定

優先度3「提出できる大会」の期間について

ミドル基準に合わせて、前年度セレは含まず、今年度含むという解釈に決定。

6. スプリントセレ実施規約・推薦基準改正について

実施規約

スプリントセレの運営主体、トレインなどをいつ決定するか

京大：以下の流れで決定することを提案する

- ① 11月総会で次期OB1年目世代に運営できるかどうか確認する
- ② OBが運営してくれそうならば単独開催の方向に決定するが、OBが運営できないようであれば冬の近畿OL連絡会で相乗りできる大会を探す
- ③ 2月総会までに相乗りできる大会を見つけれない場合は、改めてOBに運営を依頼することになり、2月総会でトレインと日程を決定する
- ④ その後OBと調整し4月総会で開催の是非を最終判断する

阪大、京女はこの案に賛成

奈良女：スプリントセレに関してはノウハウが確立していないこともありトラブルが予想される。それに迅速に対応するため原則的に日程、運営主体、トレインすべて2月総会で決定すべき

このあと主に京大案の問題点について話し合った。

- ・一度運営する意思がないことを表明したOBに対して、4月に再度運営を依頼するのはどうなのか。時期的に遅すぎるのではないか
- ・3月中にメーリス上で決定しOBにも話を通したうえで、4月総会で承認という形でよい
- ・対面の議論でなくとも意思決定ができる規約を整備した方がよいかもしれない

6条：セレ免除者

ミドル・ロング同様世界大会出場者および前年度インカレ入賞者

- ・外部委託で運営が不要な場合セレ免除者はどうするのか

- ① 出場禁止
- ② 出場できるがセレの順位から除く
- ③ 別のクラスのみ出場できる

の3つが考えられる。

- ・セレ免除になるような有力選手が出場すればバックが多発して適切な選考ができない可能性がある
- ・一般大会ではセレ免除者に限らずバックの対象になるような速い選手がいることは十分ありうる
- ・外部委託するのは一般の大会であり、一般大会に出場できないというのはおかしい
- ・特に現状相乗りする大会としては関西パーク O ツアーが有力であるため、セレ免除者の出場を禁止すると年間成績に悪影響が出る

・他クラスなら出場できるとしても、外部委託の場合、セレクラスが別に用意されることは望めない

→全校一致で免除者も出場はできるがセレ対象順位から除く

以上のとおりスプリントセレ実施基準を策定することを全校が承認。今後正式に起草し日学に申請する

推薦基準

まずは各校涉外からいくつか疑問が出された

Q1. そもそもスプリントに推薦は必要なのか。競技の性質から考えて一発勝負で力を出し切るのも実力のうちなのではないか

・昨年のスプリントセレでも 1 回目のレースで失敗したものの 2 回目で巻き返した例がある。推薦はやはり必要

→全員賛成

Q2. 優先度 2：前年度インカレの順位について

スプリントとフォレストは違う。ミドル競技の成績からスプリントの実力を推し量ることは適切ではない

→全校反対で削除

Q3. 優先度 1：女子推薦の順位

ロング、ミドル同様、前年度インカレの順位は男子の規準の比率から算出する

→全校賛成で比率算出方式をとることを決定

Q4. 優先度 3：提出できる大会について

- ・スプリント以外の大会の提出を認めるか
- ・スプリントの大会は何でも提出できるのか（公認のみなどの縛りをつけるか）

京大：スプリント以外の大会の提出も可能だが選考にあたってはスプリントが重視される

阪大：大学として一つの意見に絞っておらず、以下のような意見が集まった

・スプリント以外の大会を提出する場合は全日本大会などある程度の規模以上のもののみとする

・そもそも優先度 3 は必要なく次点でいいのではないか

・スプリントはそのときの速さを競うものであるべきで、推薦対象者は怪我などやむを得ない事情でセレに参加できなかった人に限るべきではないか

奈良女：京大と同じ

京女：京大と同じ

以下これらの意見について議論した

- ・推薦対象者をセレに出れなかった人のみとすると一切の救済措置がなくなるためよくない。特に今後一般大会に相乗りする場合は 2 レース制の実施が難しいことが予想されるためせめて推薦はあった方がよい
- ・セレに出られなかった人のみを対象とするとすでに良い成績を収めた人がわざとセレを避けることもありうる

→賛成 1 反対 3 で推薦はセレ出場者も対象とすることを決定

優先度 3：提出できる大会について

- ・スプリントに限定するとスプリントの大会の母数が少ないためやりにくいのでは
- ・関西パーク O を対象とすればスプリントの大会でも一定の数を確保できる
- ・インカレスプリントはフォレスト要素が強いこともあるのでミドルの大会などフォレストの実力も測れるようにした方がよい
- ・大阪城ミドルなどは競技的にはミドルだがパークであり基準になるのでは

議論の結果判断基準になる大会については諮問委員が適宜判断してくれるので特に制限を設けないことを決定

またそれに伴い、スプリント以外の大会も提出できるが選考においてはスプリントの大会を重視することに決定

→全校賛成によりスプリントセレ実施規約および推薦基準を以上のとおり改訂する

7. ニューテレイン開拓について

- ・ニューテレインの開拓に日学の事業を使うかどうか

京大、京女：版權は関西で持ちたいので援助のみの方向で検討してほしい

阪大：前向きに考えてほしい

奈良女：財政的につらいので日学新事業を使うべき

幹事長より補足：日学の新事業は利益回収の見込みがないと認められないので実質関西で利用するのは難しい。補助を要請することは可能だがテレイン整備自体は関西で進めることになる。またテレインを開発したとして実際に使えるのは早くて次々回のロングセレになりそうである

→テレイン開拓の是非について採択。全校賛成によりニューテレインの積極的開拓を決定

8. 定例戦赤字への対応について

- ・赤字補填の採決や承認のプロセスに運営校が参加できるのか否か
- ・赤字が出た場合、どのように補填するか

京大、京女：運営校を除いた2校で判断すべき

阪大：お金は学連全体のものであるから採決や承認には全校が参加すべき。ただし最終的な判断においては非運営校の意見を重視するのが妥当である

奈良女：定例戦は構造上赤字が出やすいため、補填自体は自動で行うべき。ただし運営校は反省と報告を徹底すること。また、補填の上限額を定めることを検討してもよい

- ・自動補填では会計に不備や不正があったときに取り返しがつかないのではないか
- ・それを防ぐために反省と報告の徹底を盛り込んでいる。また運営校が不正をすることをそれほど憂慮しなくてもよいのではないか
- ・規則は万が一に対応する余地を残して作らねばならず、不正の可能性は考慮すべき
- ・お金は全加盟員から集めたものであるので会計処理はオープンであるべき。加盟員に知らせないまま自動補填されるのはよくない。少なくとも承認のプロセスは必須
- ・すべての加盟員から集めたお金の動かし方はすべての加盟員（その台木機能としての渉外）の権限で動かすべき。従って形式的にであっても全校が議決・承認プロセスに参加する必要がある。

→ここまでの意見を踏まえて採決。前項の賛成で「原則として決定権は全加盟校に等しくあるが意見が割れた場合は非運営校の判断を重視する」ことに決定

赤字補填の方法について

- ・予め運営補助金をつけるか
- ・赤字補填額に上限を設けるか
- ・上限を設けるならば、上限を超えたときどのように対応するか

京大：補助金につけない。補助金をつけると経費削減を怠る可能性がある。また赤字補填については5万円を上限とする。5万円は経験上、自動車事故等がなかった場合の合理的な額である

阪大：不正がない限りは赤字が出て補填されるはずなので補助金は必要ない。また不正がない限りはいかなる赤字も補填すべきであるから上限額も設定しない

奈良女：経費削減のインセンティブとして補助金は設けない。また同じく経費削減を動機づけるため赤字補填は上限2万円とする。この額以下なら自動補填でもよいが超えた場合は総会で再審議して超過分の補填の是非を決める

京女：補助金は不要。また赤字が出たら基本的に補填する姿勢でよい

- ・上限があれば学連としても赤字が出る度に話し合いをする手間が省けるし、運営校も必要以上に罪悪感を感じなくて済むのではないか
- ・上限額以下なら基本的に承認のみで半自動的に補填されるという奈良女案は合理的ではあるが、上限額以下ならほぼ確実に赤字補填が受けられるとなれば経費削減努力を怠るのではないか。結果的に上限額分の補助金をつけるのと同じにならないか
- ・上限額以下の自動補填で経費削減のインセンティブが低下することを心配するなら、上限額以下は自動補填という規則は学連幹事会内部の覚書とし、外部に大っぴらに発信しなければよいのではないか

ここまでの話し合いの結果、上限額を設定することには全校が賛成したため上限額をいくらに設定するかに論点を移した。

京大：上限は 5 万円といったがこの案では 5 万円を超えた場合にさらに補填する可能性は考えていない

奈良女：上限 2 万円の場合は上限額を超える赤字が出た場合は総会での話し合いを経て追加の補填ができるものと想定している

- ・5 万とか 2 万とかいう金額は本当に妥当なのか
- ・過去に運営者が自動車事故を起こし 7 万円程度の赤字が出たことがある。事故はドライバーの不注意といえなくもないが、運営のために運転していたことを考えれば事故に対しても補填すべきであり、5 万以上は出さないというのは危険ではないか
- ・万が一を考えていたらきりがない。とりあえずの規定を作り、その枠内に収まらない事態が発生した場合にはその時に対応できるように定めておけばよい

→採決。全校一致で 2 万円の上限額を設定し、超過した場合には総会での審議によって追加補填の是非を決定することに決定。なお、時間の関係上、文言は持ち帰りとする

9. 今年度インカレミドル推薦に係る幹事会決定の承認

→全校承認。

10. 来年度スプリントセレ日程について

幹事長：学校としての意見は固まっていないと思うのでとりあえずの個人的希望を出してほしい

- ・7 月中旬以降はテストがあるので早い方がよい
- ・7 月 16 日、18 日なら日程が変わってもよいができれば 16 日がよい
- ・8 月上旬はテストがあって無理
- ・京女は 7 月 10 日と 18 日は授業日である可能性が高い

11. 各部局から

普及：3月19日に女子対抗戦を開催するので誘い合わせて参加してください

競技：部長杯が無事成功しました。ご協力ありがとうございます

会計：京女に届いたはがきについて。かなり前の学連会計担当者の名義でゆうちょ銀行に預けられていた約50万円が満期になったとお知らせ。満期後10年たつと権利が喪失するらしい。現在当時の担当者と連絡をとろうと調整中である。学連の自由になるお金である可能性がある

以上